

第1学年 生活科学習指導案

平成26年11月13日(木) 2校時

場所：1年教室 指導者：桐田 照美

1 単元名 1年「あきと ともだち」(教育出版)

2 単元について

- (1) 児童はこれまで、春や夏の公園へ出かけたり校庭を散策したりして、季節の自然と触れ合う体験をしている。秋は、葉が色づいたり実がなったり虫が鳴いたりするなどの自然の変化を体感できる季節である。

本単元では、秋の自然を観察したり、木の実や木の葉を使った遊びをしたり、おもちゃを製作したりすることを通して、季節の変化とともに自分たちの生活に秋を取り入れていくことの楽しさに気づき、自然に親しむことをねらいとしている。また、単元の最後に、保育園児やお世話になった人たちを「あきのたからものランド」に招待するという時間を設定する。招待する人のことを考えながら友だち同士で計画・準備・実行することで、協力して一つの活動を成し遂げることの大事さや人との交流の喜びを味わわせ、自分たちの生活をつくりあげていこうとする意欲と実践的な力を育てることができる単元である。

- (2) 本単元の系統は次のとおりである。

1年	1年	1年	1年	2年
はるとともだち	なつともだち	あきともだち	ふゆともだち	作ってためして

- (3) 本単元にかかわる児童の実態は次のとおりである。(16名)

本学級の児童は、屋外での活動を好み、昆虫を探したり季節の植物を採取したりする活動に意欲的に取り組んできた。また、イモリや掘ったサツマイモを観察して、発見の喜びや楽しさを体感してきた。生活科については、16名全員が「好き」と答えており、春の探検や動植物と触れ合う活動についても、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいた。

秋の自然物を使った遊びについては、ほとんどの児童が、どんぐりごま、木の葉や木の実を使った遊びや飾り作りを体験している。その多くが、就学前に各園で体験していた。

3 仮説にせまる授業での取組

- (1) 問題設定の工夫(柱①)

○自然と直接かかわる体験活動を取り入れることにより、自然への関心を高め、その不思議さや面白さを実感できるようにする。

○単元の最後に「あきのたからものランドをひらく」という計画を立て、学習への意欲を高める。

- (2) 自分の考えをもち、表現できる手立ての工夫(柱②)

○秋探しに出かけて収集した「秋を感じるもの」を観察させ、「秋のものクイズ」を作らせる。

○集めてきたものでどんなおもちゃや遊びができるかを出し合い、その中からやりたいものを選びさせる。その際の参考になるように、事前に学級図書に関連する本を置いておく。

○作りたいものが似ている児童同士でチームを作り、協力しながら取り組ませる。

○「あきのたからものランド」に招待する人に楽しんでもらうためには、秋のものを使った遊びやおもちゃをどのように紹介したらよいか、チームごとに話し合って計画を立てる。

○学級の中で「ミニあきのたからものランド」を開き、友だちの開いたコーナーで遊ぶ中で感じたこと(よかったこと、アドバイス)を出し合い、本番に向けて練習を行う。

○招待状を書いたり、遊び方を紹介したりする活動を通して、言葉で表現し相手に伝えることの大事さや交流の楽しさを味わわせる。

- (3) 身近な生活や自然で理科を実感させる工夫(柱③)

○秋になっても紅葉しない木や葉が落ちない木があることに気付かせる。

4 単元の目標

秋になった校区を散歩したり、秋の自然物を探したりしながら、季節の変化に気づくことができるようにするとともに、秋の自然物や身の回りの素材を利用しておもちゃや飾りを作ったり、遊び方を工夫したりしながら、みんなで秋の遊びを楽しむことができるようにする。

5 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や、自分についての気づき
① 秋の虫や木の葉、木の実に興味をもち、探そうとしている。 ② 木の実や木の葉の特徴を生かして遊びに使うものを作ったり、友だちと遊んだりしようとしている。 ③ 「あきのたからものランド」を開くために話し合ったり、招待した人に遊び方を説明したりしている。	① 諸感覚を使って、身近な自然を観察している。 ② 集めた木の実や木の葉を使って遊ぶために、必要な材料や道具を準備して作っている。 ③ 招待した人に楽しんでもらえるような方法を考えている。 ④ 活動を振り返り、嬉しかったことや楽しかったことを絵や文で表現している。	① 秋の自然の様子や自然物の特徴に気付いている。 ② 木の実や木の葉で遊びを工夫するおもしろさに気づいている。 ③ 招待した人に喜んでもらうためには、適切なかわり方があることに気付いている。

6 指導と評価の計画（17時間扱い）

次時	主な学習活動 [◇教師の支援・留意点] <>…小単元名	評価規準及び評価方法
第1次1時間	<あきとともだち> はるやなつとくらべて、木や虫はどのようにかわったのだろう ○校庭へ出て学校の秋を探す。 ○見つけた秋を発表する。 ○日の岡山に、秋を探しに行く計画を立てる。	◇木の葉の様子や、見つけた虫などが、春や夏とは違うことに着目させる。 ◇秋探してやりたいこと、そのための準備物や服装について考えさせる。 関心・意欲・態度① 観察・発表
第2次6時間	<あきをかんじよう> 目、手、みみ、はな、口をつかって、あきをさがそう ○日の岡山で、虫を探したり木の実や落ち葉を集めたりして、自然との触れ合いを楽しむ。 ○探検して思ったことを手紙に書く。	◇活動の振り返りに生かすことができるように写真を撮っておく。 思考・表現① 観察・発表・手紙
第3次1時間	<いろいろなはやみ> とくちょうをかんがえて、「あきのものクイズ」をつくろう ○見つけた木の実や木の葉・生き物の特徴をとらえ、クイズをつくる。	◇秋探して児童が見つけたものの写真を黒板に貼り、実物があるものは、教室の後方に展示しておく。 気づき① シート

第4次3時間	<あきとあそぼう>			
	木の葉や木の実で、あきのおもちゃやかざりをつくろう			
	8 9	○木の実や木の葉を使って遊ぶための道具やおもちゃを作る。	◇事前に教室の図書コーナーに秋のものを使った遊びやおもちゃの本を展示し、作るものを考えさせておく。 ◇作り方や遊び方、安全面での留意点の指導に使ったカードは、黒板に掲示しておく。 ◇作りたいものが同じ児童同士は、相談できるように側で作らせる。	思考・表現② 気付き② 観察・シート
10	○作ったおもちゃで、友だちと一緒に遊ぶ。	◇自分で作ったおもちゃで遊んだり、友だちと交換で遊んだりして、遊ぶ楽しさを味わわせる。	関心・意欲・態度② 観察	
第5次7時間	<みんなでのしもう>			
	あきのたからものランドをひらこう			
	11	○活動をふり返り「あきのたからものランド」の計画を立て、招待状を書く。	◇招待する人や招待状に書くことを話し合っ決めてさせる。	思考・表現③ 発表・招待状
	12	○遊びに使うものや、コーナーに必要なものを作る。	◇各コーナーごとに必要な材料や道具について準備させておく。	
	13	○「ミニあきのたからものランド」(リハーサル)を行い、よかったところやアドバイスを出し合う。	◇全員が自分のコーナー以外での遊びを体験できるようにする。 ◇それぞれのコーナーについて、よかったところやアドバイスを出し合う。	
	14	○前時のアドバイスをもとに、各コーナーを工夫する。	◇招待した人に喜んでもらうための工夫を確認する。	思考・表現③ 観察・発表
	15 16	○保育園児やお世話になった人を招待し、一緒に楽しむ。	◇招待した人が一か所に偏らないように、回る順序を決めておく。	関心・意欲・態度③ 観察
17	○活動をふり返り、楽しかったことや嬉しかったことを絵や文に表す。	◇活動時の写真をスライドショーで提示し、活動を想起させる。	気付き③ 思考・表現④ シート・発表	

7 本時の学習 (7/17時間)

(1) 目標 見つけた木の実や木の葉、生き物の特徴に気づき、秋のもののクイズを作ることができる。
【気付き】

(2) 仮説との関連

本時においては、柱②を中心として研究を進める。秋のものの写真や実物から特徴をとらえ、それをクイズにして出題することは、秋のものについての自分の見方を表現することにつながる。また、互いの考えを共有する場にもなるととらえる。

(3) 展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点・評価	備考
つかむ	2	1 教師の出した「秋のものクイズ」の答えを考える。 ・色、形、様子 2 めあての確認をする。	○どんな言葉で答えを思いついたのか尋ね、「特徴」について考えさせる。 ※色は黄色です。ひらひら落ちてきます。 形は三角にしています。	写真 スライド ショー
		(めあて) とくちょうをかんがえて、「あきのものクイズ」をつくろう		
もとめる	5	3 日の岡山探検のときの写真をスライドショーで見る。 ・ぼくが見つけたのがあった。 ・苦かった。 ・ぬべだったかな?あけびかな?	○秋探し活動の様子や見つけたものの写真をスライドショーで提示する。 ○日の岡山で見つけたものの写真を黒板に貼る。(柱①) ○写真には番号をつけておく。	写真
	5	4 クイズを作る。 (1) クイズの作り方を知る。 ・さつまいもの特徴は… ・外側が紫色。 ・焼いたらおいしくなる。 ・秋になると、大きくなる。	○学級全体で1つのものについて、作り方を確認する。(柱②) (1) 秋の物を選ぶ。 (2) 答えの番号を書く。 (3) 特徴を3つ考えて、ヒントを書く。 (4) 読み直して先生に見せる。	
ふりかえる	1 3	(2) 選んだものについてクイズを作る。 ・実物を持ってきて観察しよう。 ・「くつつく」って書いたらわかりやすいかな。 ・秋になると、赤くなる。	○五感カードを提示する。 ◆気づき① (クイズシート) ① B基準 秋のものの特徴を入れて、クイズを作ることができる。	秋のもの の実物 クイズ用 紙
		(3) クイズ大会の前に、自分が作ったもの以外の実物にも触れておく。	A基準 ○秋の特徴をとらえたクイズを作っている。 <B基準に達していない児童への手立て> ○色や形、触った感じについて問いかけ、言葉を引き出す。	
まとめる	1 5	5 クイズ大会を開く。 ・茶色だけでは、わからないな。 ・くつつくものは、いくつかあったな。 ・「苦い」でわかったぞ。	○班ごとに前に出て出題させる。 ○話し方、聞き方名人を意識させる。 ○シートに答えを書き込ませる。	解答用紙 鉛筆 赤鉛筆
	3	6 本時の学習をふり返る。 ・特徴を考えるのが難しいのと簡単なのがあった。 ・秋になると葉っぱが赤や黄色になる。 ・実が食べられるようになる。 ・くつつくものが増える。	○「めあて」についてふり返らせる。 ○秋になるとどんなふうにかわったのか(秋の特徴)について、板書をもとにふり返らせる。 (例) 柿、いちょう	
	2	7 教師の出したクイズの答えを考える。	○目には見えないものでも秋を感じることができることを実感させる。 ヒント…目に見えない。まどから入ってくる。つめたい。	

○「徹底指導」と「能動型学習」

本時においては、秋のもの写真や実物を観察して特徴をとらえクイズを作らせることで、能動的な学習につなげたい。そのために、最初にクイズ作りのポイントを確認し、みんなで1問作ってみる(徹底指導)で、個人がスムーズに活動を進めることができるようにする。このクイズ作りを通して、身近な自然を観察する力を身につけさせたい。

○本時で身に付けさせたい科学的用語

色、形、大きさ、長さ、太さ、手ざわり、におい、あじ

